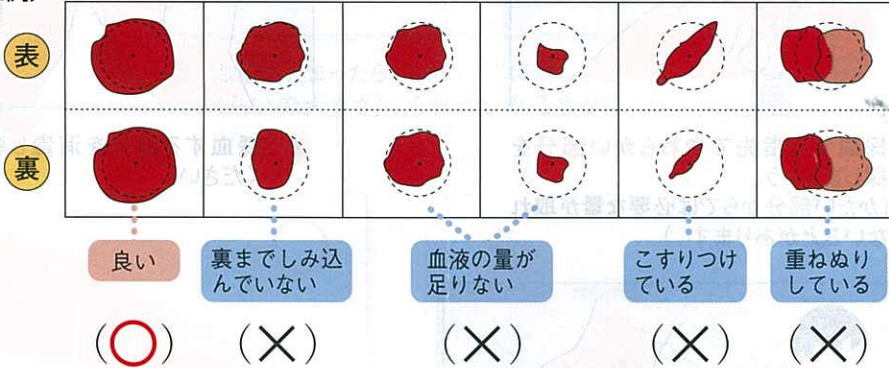


## 採血のポイント

- ① 採血前には手をよく温める。
- ② 採血器具は指に強く押しあててからボタンを押す。
- ③ 指の上にじゅうぶんな血液がたまってから、ろ紙にしみ込ませる。
- ④ 血液はろ紙の裏までしみ込ませる。(4つの○すべてにしみ込ませてください)

〔採血例〕



A

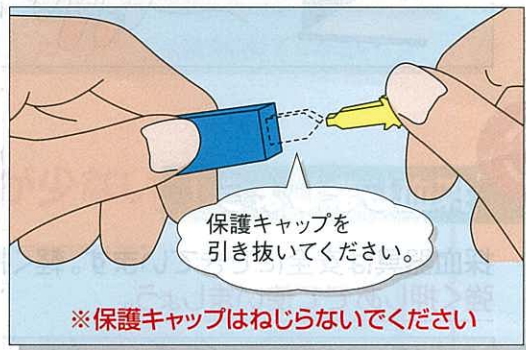
## 手をよく洗って、採血器具の準備をしましょう！

1



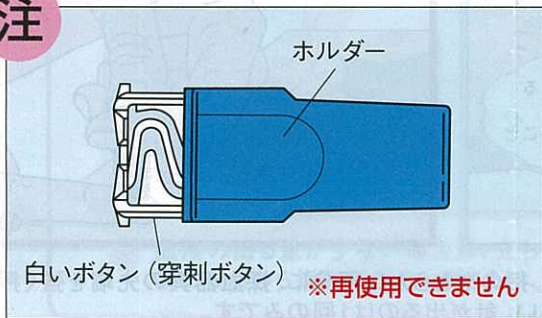
● 温水で手を温めながらよく洗いましょう。

2



● 採血器具の保護キャップを引っ張って取り外します。

注



● 保護キャップを引き抜いた後、指に当てるまでボタンを押さないでください。  
採血器具の針は一度しか出ません。

## B

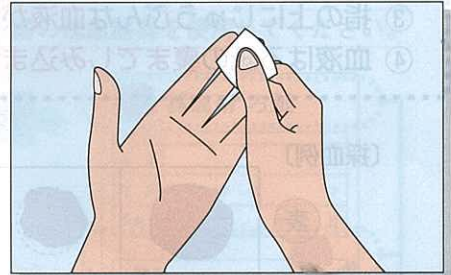
### 採血の準備をしましょう！

1



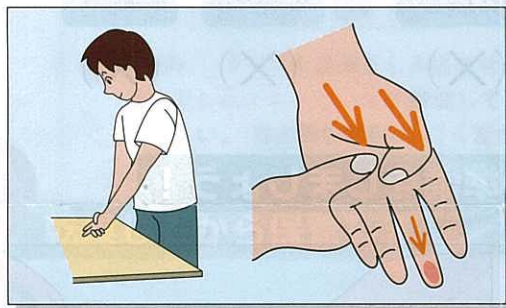
● 採血する指先でやわらかい部分を探しましょう。  
(かたい部分からでは必要な量が取れないことがあります。)

2



● 採血する部分を消毒し乾燥させてください。

3



● 立ち上がり、腕を心臓より下げ、手のひらから指先に向かってマッサージしてください。(消毒した部分には触れないでください。)

## C

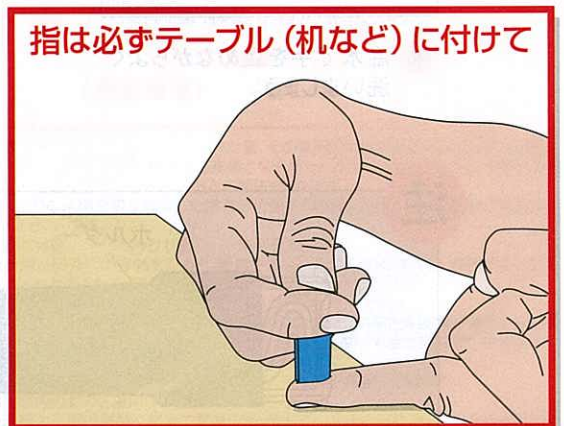
### 採血しましょう！

採血器具は安全にできています。軽く押しあてただけではあまり血液が出ませんので、**強く押しあてて使しましょう。**

1



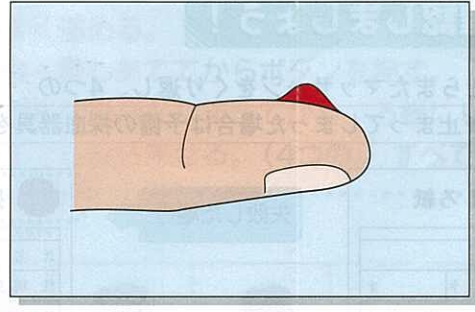
**指は必ずテーブル (机など) に付けて**



● テーブル (机など) の上に指を置きます。指のやわらかい部分に、採血器具の先端を強く押しあて、白いボタン (穿刺ボタン) を押してください。針が出るのは1回のみです。

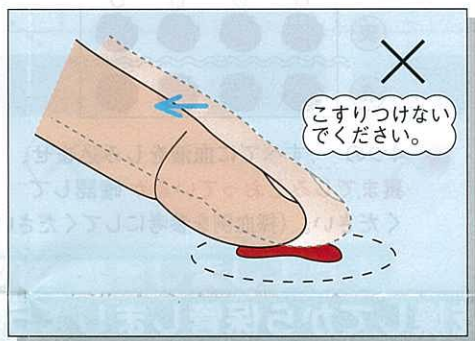
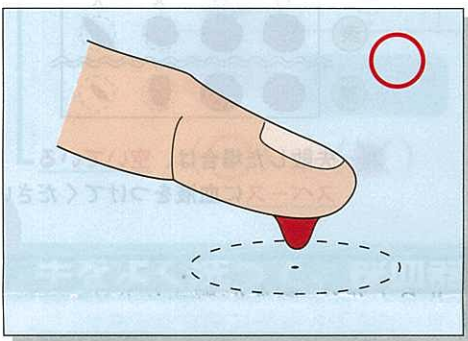


2



● 血液がたまったら(1つの○に対し小豆  
くらいの大きさ)、ろ紙にしみ込ませて  
ください。

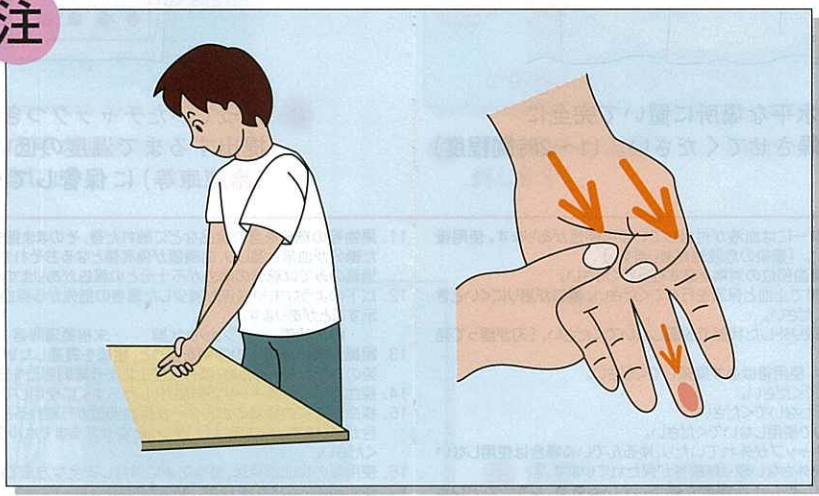
3



● ろ紙に指を押しつけず、血液だけをろ紙の○の中につけるようにしてください。  
×のようにこすりつけないでください。

### 血液の出る量が少ない場合

注



● 血液の出る量が少ない場合は、立ち上がり、腕を心臓より下げ、  
手のひらから指先に向かってさらに、しぼるようにマッサージしてください。

# D

## 採血したものを確認しましょう！

※1つの①に血液をつけたらまたマッサージをくり返し、4つの②すべてに血液をしみ込ませてください。血液が止まってしまった場合は予備の採血器具を使用してください。

成功した例

採血用ろ紙				
フリガナ				
氏名				
性別	男・女	年齢	才	
採血日	年	月	日	

注意事項

- ①印を必ず十分に、しかも裏面に染み通るように採血して下さい。
- 裏ね振りしないで下さい。
- 採血後1時間程度乾燥させ、ビニール袋に入れて下さい。

表

裏

失敗した場合

採血用ろ紙				
フリガナ				
氏名				
性別	男・女	年齢	才	
採血日	年	月	日	

注意事項

- ①印を必ず十分に、しかも裏面に染み通るように採血して下さい。
- 裏ね振りしないで下さい。
- 採血後1時間程度乾燥させ、ビニール袋に入れて下さい。

表

裏

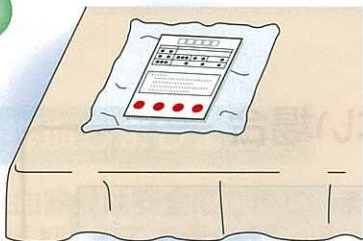
4つの②すべてに血液をしみ込ませ、裏までしみとれているか確認してください。(採血例を参考にしてください)

失敗した場合は、空いているスペースに血液をつけてください。

# E

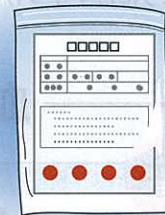
## 乾燥してから保管しましょう！

1



ろ紙は水平な場所に置いて完全に自然乾燥させてください。(1~2時間程度)

2



入っていたチャックつき袋に入れ、提出するまで温度の低いところ(冷蔵庫等)に保管してください。

### 注意事項

- 使用後の採血器具のホルダーには血液が付着している可能性があります。使用後は速やかに廃棄してください。【感染の危険性があります。】
- 感染の危険性があるため、採血部位の消毒を必ず行ってください。
- 採血器具の保護キャップを取り外した状態で放置しないでください。【刃が誤って発射される危険性があります。】
- 採血器具は再使用禁止です。使用後は必ず廃棄してください。
- 指先以外での採血はしないでください。
- 採血器具は分解や改造を行わないでください。
- 採血器具は採血以外の目的で使用しないでください。
- 使用時に採血器具の保護キャップが外れていたり、ゆるんでいる場合は使用しないでください。【保護キャップを外さない限り無菌性が保たれています。】
- 出血性疾患や薬剤服用等により、止血機能が低下している患者、ショック・アレルギーのある方は使用しないでください。
- 指先から採血する場合は、穿刺前に、必ず流水でよく手を洗ってください。
- 果物等の糖分を含む食品などに触れた後、そのまま指先から採血すると指先に付着した糖分が血液と混じり、血糖値が偽高値となるおそれがあります。【アルコール綿による消毒のみでは糖分の除去が不十分との報告があります。】
- 以下のような末梢血流が減少した患者の指先から採血した場合は、血糖値が偽低値を示すことがあります。
  - ・脱水状態
  - ・ショック状態
  - ・末梢循環障害
- 組織が薄い部位への穿刺を行うと、組織を貫通した針で指を穿刺し、血液を介した感染のおそれがあるため、添付文書上にある穿刺部位を守ってください。
- 採血器具の保護キャップを取り外したらすぐに使用してください。
- 採血時に採血器具のホルダーが採血部位から離れると、必要な採血量が得られない場合があります。採血時は「パチン」と音がするまでホルダーを採血部位から離さないでください。
- 使用後の採血器具は、感染防止に留意し安全な方法で廃棄してください。
- 使用期限内のものを使用してください。
- 採血器具の刃先は非常に鋭利で危険です。取り扱いには十分注意し、小児の手の届かないところに保管してください。
- 採血器具は、一度作動させると二度と作動しないので、採血時以外は作動させないでください。